

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

平成 29 年度全国学力・学習状況調査結果の概要についてお知らせします。

今回の調査ではかれるのは学力の一部であり、子のことを踏まえて、単に数値のみで序列化された過度の競争につながることはないように留意をお願いします。

1 調査の概要

(1) 調査実施日 平成 29 年 4 月 18 日（火）

(2) 調査の対象

国・公・私立学校小学校 6 年生（特別支援学校含む） 全児童

国・公・私立学校中学校 3 年生（特別支援学校含む） 全生徒

*特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童・生徒数 ・小学校 401 名 ・中学校 410 名

(4) 調査の内容

- ① 教科に関する調査 ・国語A（知識） ・国語B（活用）
 ・算数・数学A（知識） ・算数・数学B（活用）
- ② 質問紙調査 ・児童生徒に対する調査 ・学校に対する調査

2 各教科の平均正答率

(1) 小 学 校

	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差(市—県) <昨年>	差(市—国) <昨年>	差(県—国) <昨年>
国語A	75	75	74.8	0 <-2.3>	0.2 <-0.7>	0.2 <1.6>
国語B	60	58	57.5	2 <-4.4>	2.5 <-4.9>	0.5 <-0.5>
算数A	78	77	78.6	1.0 <-3.3>	-0.6 <-3.9>	-1.6 <-0.6>
算数B	43	43	45.9	0 <-2.8>	-2.9 <-4.1>	-2.9 <-1.3>

(2) 中 学 校

	平均正答率 (%)					
	浜田市	島根県	全国	差(市—県) <昨年>	差(市—国) <昨年>	差(県—国) <昨年>
国語A	76	77	77.4	-1.0 <-1.7>	-1.4 <-1.0>	-0.4 <0.7>
国語B	69	72	72.2	-3.0 <-3.1>	-3.2 <-1.7>	-0.2 <1.4>
数学A	61	62	64.6	-1.0 <-5.1>	-3.6 <-7.8>	-2.6 <-2.7>
数学B	44	46	48.1	-2.0 <-4.2>	-4.1 <-6.6>	-2.1 <-2.4>

3 島根県の結果の概要

- 小学校国語A・国語B、中学校国語A・国語Bにおいては、全国平均並みである。
- 小学校算数A・算数B、中学校数学A・数学Bにおいては、全国平均を下回っている。
- 小学校国語A・国語Bでは、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回ったが、国語Bでは、「読むこと」の領域で全国平均を下回った。
- 小学校算数A・算数Bでは、ほとんどの領域で全国平均を下回った。
- 中学校国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国平均を上回った。国語Bでは「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回ったが、「読むこと」「言語事項」で全国平均を下回った。
- 中学校数学A・数学Bでは、全ての領域を下回った。

4 浜田市の結果

(1) 各教科の分類別集計結果の概要

- ※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの
- －：市と県の差が2ポイント未満のもの
- △：市が県を2ポイント以上、下回るもの

① 小学校国語A

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		0				
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	1	73.3	71.3	2	○
書く能力	書くこと	2	59.5	61.1	-1.6	-
読む能力	読むこと	3	68	69.4	-1.4	-
言語事項	伝統的な言語文化	11	78.4	77.8	0.6	-

② 小学校国語B

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	45.1	42.3	2.8	○
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	69.4	67.3	2.1	○
書く能力	書くこと	5	56.7	53.8	2.9	○
読む能力	読むこと	3	49.6	46.3	3.3	○
言語事項	伝統的な言語文化	0				

③ 小学校算数A

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	8	80.3	79.3	1	-
量と測定	2	65	65.8	-0.8	-
図形	2	80	82.2	-2.2	△
数量関係	5	77.5	76.9	0.6	-

④ 小学校算数B

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	5	50.2	50.7	-0.5	-
量と測定	2	44.6	44.9	-0.3	-
図形	1	8.5	8.6	-0.1	-
数量関係	8	36.5	36.4	0.1	-

⑤ 中学校国語A

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		0				
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	4	75.9	77.1	-1.2	-
書く能力	書くこと	4	87.3	87.4	-0.1	-
読む能力	読むこと	6	72.6	74	-1.4	-
言語事項	言語事項	18	75	76.5	-1.5	-

⑥ 中学校国語B

評価の観点	学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
関心・意欲・態度		3	49.3	54.9	-5.6	△
話す・聞く能力	話すこと・聞くこと	3	70.7	73.8	-3.1	△
書く能力	書くこと	4	55.7	60.3	-4.6	△
読む能力	読むこと	4	68.7	71	-2.3	△
言語事項	言語事項	1	30.5	37.3	-6.8	△

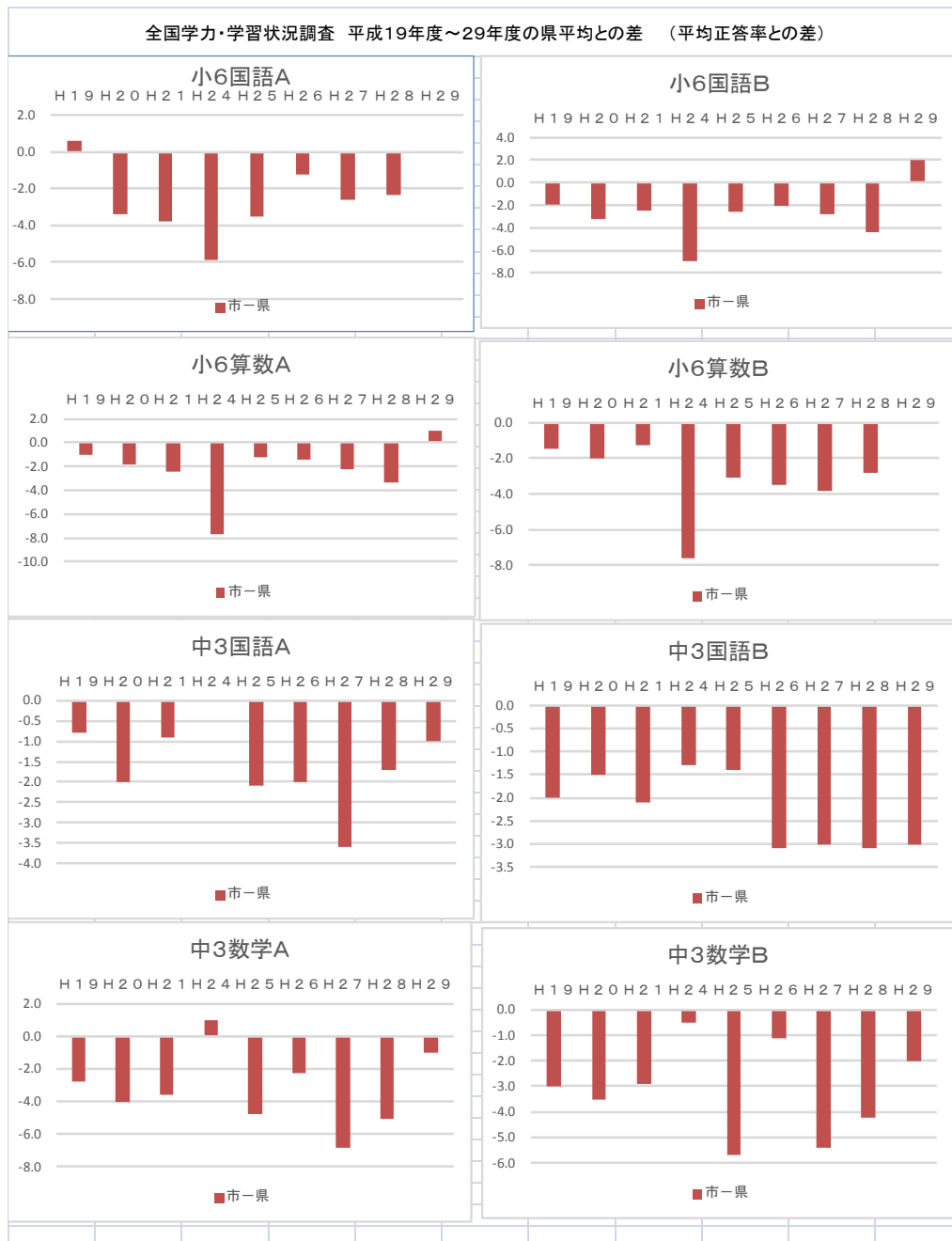
② 中学校数学A

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	12	66.7	68.4	-1.7	-
図形	12	62.4	63.6	-1.2	-
関数	8	54.6	54.5	0.1	-
資料の活用	4	54.4	55.4	-1	-

② 中学校数学B

学習指導要領の領域	対象設問数	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	3	44.1	44.6	-0.5	-
図形	6	44.8	45	-0.2	-
関数	3	43.7	47.1	-3.4	△
資料の活用	3	44.7	48	-3.3	△

(2) 平均正答率の県との差の推移



(3) 教科に関する結果の概要

小学校国語は、全ての評価の観点で、県と同程度か、上回っている。特に国語Bでは、全ての観点で県の正答率を上回った。小学校算数も図形を除く全ての観点で同程度となっている。

中学校国語Aは、全ての評価の観点で県と同程度であったが、国語Bでは、全ての観点で県よりも低く課題である。中学校数学Aについては、全ての観点で県と同程度であった。数学Bについては、関数と資料の活用が県を下回っているが、数と式、図形については同程度であった。

平均正答率の推移を見てみると中学校国語Bを除く全ての学力調査で県平均に近づいているか、県平均を上回った。A問題については、小学校国語、算数、中学校国語、数学の全てにおいて県平均に迫るか、上回ってきている。

各校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、指導・支援が必要な生徒への指導の時間の確保等）が、徐々に効果を表す結果となっている。

B問題については、小学校では同程度か、上回っている。中学校数学Bについても2ポイント以上差を縮めてきており改善傾向が伺われる。学校図書館活用教育等で行ってきた情報センターとしての図書館の機能を活用した学習の成果の表れであると考え。また、各校で進めてきた、「主体的で対話的で深い学び」への授業の転換への努力も影響しているであろう。

一方中学校国語Bについては、全ての観点で島根県の値を下回っている。教科横断的な指導や、主体的・対話的で深い学びへの転換を図ることが求められる。

(4) 質問紙の回答状況から ※数字は割合(%) ()の数字は全国平均との差

○「自分にはよいところがあると思う」と感じている児童生徒の割合は、小学校でも、中学校でも改善がみられた。小学校、中学校とも昨年度の値よりも伸び、小中とも全国平均を上回る結果となっている。

・「自分にはよいところがあると思う」

小学校 78.5 (+0.6) 中学校 73.6 (+4.9)

○学校図書館や地域の図書館を利用する児童生徒の割合は、全国平均よりも高く、学校図書館活用教育の効果が見られる。

・「昼休みや放課後、学校が休みの日に本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするため、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に週1回以上行く。」

小学校 30.9 (+15.3) 中学校 17.3 (+8.1)

○普段の家庭学習時間については、1日1時間以上家庭学習をする児童生徒の割合は小中ともに昨年度よりも増えており、小学校では70%を超えた。中学校では、まだ全国よりも下回っており課題であるが、昨年度と比較すると10ポイント以上伸びており、各学校での取組の成果が感じられる。

・「普段（月～金曜日）、1日あたり1時間以上家庭学習をしている。（学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む）」

小学校 70.4 (+6.0) ← 昨年度 58.7 (-3.8)

中学校 59.8 (-9.8) ← 昨年度 47.8 (-20.1)

○メディア接触時間については、改善傾向がみられる。「メール、インターネットをする」については、小・中学校ともに全国平均よりは少ない。

・「普段（月～金曜日）、1日あたり2時間以上TVやビデオ、DVDを見たり聞いたりする。（TVゲームをする時間は除く）」

小学校 55.9 (+0.2) ← 昨年度 58.9 (+1.8)

中学校 56.3 (+7.4) ← 昨年度 55.6 (+6.7)

・「普段（月～金曜日）、1日あたり2時間以上TVゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする。」

小学校 27.0 (-4.1) ← 昨年度 25.0 (-4.7)

中学校 31.7 (+0.1) ← 昨年度 31.7 (-3.2)

・「普段（月～金曜日）、1日あたり2時間以上携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットをする。（ゲームをする時間を除く）」

小学校 8.4 (-3.6) ← 昨年度 9.8 (-0.6)

中学校 27.5 (-2.7) ← 昨年度 28.8 (-1.3)

○「主体的・対話的で深い学び」への転換については小・中学校ともに昨年度よりも改善がみられる。特に小学校では、今年度は全国平均を上回った。一方、中学校では、改善がみられるものの全国との差は依然として大きく、さらに改善を図る必要がある。

・「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた。」

小学校 78.3 (+3.0) ← 昨年度 75.6 (-0.1)

中学校 64.6 (-6.7) ← 昨年度 61.4 (-7.9)

5 今後の対応

(1) 主体的・対応的で深い学びへの転換を図る

① 学校図書館教育を活用し、すべての教科を通して（国語、算数にとらわれることなく）、課題解決的、教科横断的な指導を行うことができるよう研修を深める。

- ・ 学校図書館活用教育研究指定校の公開授業研究会への参加
- ・ 教科横断的な学習を行うためのカリキュラムの見直し

② 「主体的・対話的で深い学び」に関わる研修会の実施・参加

- ・ 協調学習研究指定校の公開授業研究会への参加
- ・ 新しい学びプロジェクト研究会への参加の呼びかけ

③ B問題及び類似の問題の有効活用を図る

(2) 基礎的・基本的事項の定着を図るための指導の継続

① 各校の、基礎的・基本的事項定着の取組を継続する

- ・ 配信プリントの活用
- ・ 家庭学習の取組
- ・ 基礎学力定着のための取組

② 家庭学習ノートコンテストの取組

③ 中学校区ごとの小中連携教育での呼びかけ

- ・ 家庭学習の取り組み方
- ・ 生活習慣（ネットとの適切なつきあい方等）の見直し

(3) 授業力向上の取組（県教委との連携も含む）

① 算数・数学教育の充実

- ・ 島根県算数授業改善指定校公開授業への参加
- ・ 算数・数学研究指定校の公開授業研究会への参加
- ・ 教育アドバイザーによる指導の継続